

だんないの道

第23号

2016年3月30日発行

発行者：NPO法人CIL だんない

代表者：美濃部裕道

連絡先：〒529-0423 滋賀県長浜市木之本町
千田681番4

TEL : 0749-50-3639

E-mail : dannai@ae.auone-net.jp

代表あいさつ	・・・P1	Be すけっと 藤原久美子さんの講演を聞いて	・・・P2
自分の人生を仲間と生きる!	・・・P3	仲間	・・・P3
だんないに来て	・・・P4	活動報告	・・・P5
職員リレートーク	・・・P6	コラム ヨリの雑記帳	・・・P6

代表あいさつ

いよいよ障害者差別解消法が施行されます。待ちに待った、障害者の権利が保障される、その瞬間をみなさんと一緒に喜びたいと思います。『だんない』では、この日に向けて、ひそかにカウントダウンを実施していました。

ところが、みなさんにお知らせするために必要な掲示板がないことに気づきました。すぐに100均などで買い集めた部材で手作りしましたが、強い雨風を受けた結果、メチャメチャに壊れてしまいました。どうしようかと悩み、途方に暮れていました。

ふと道の方を見ると、『だんない』の前にある大工工場で作業をされていたヤナギダさんが目にとまりました。恐縮しながら丈夫な掲示板の作成をお願いしたら、快く引き受けてくださいました。ヤナギダさんはとても気さくで、やさしくて話しかけやすい方です。救世主の登場に、本当にありがたかったです。現在、作ってもらっている最中なので、完成したあかつきには、みなさんに報告させていただきます。カウントダウンは途中で止まってしまいましたが、『だんない』にとって貴重な出会いができてよかったです。

2015年度も終わります。いろいろな事業を実施しました。春と秋の特別ILP、夏のちょこっと祭り、ボッチャ大会への出場、第2回だんない祭りなど、新規または大きな事業実施に挑戦しました。例年よりも、一般の当事者や地域のみなさんに向けた企画を意識した結果、これまで『だんない』の存在を知らなかった多くの方々にPRすることができました。

また、「ピア・カウンセリング」の参加者が伸び悩んでいました。そこで、より親しみやすいように名称を「ピア活動」に改め、ピア坎的な要素は取り入れながらも各シリーズで少しずつ内容を変えることにしました。効果のほどは、もう少し様子を見る必要がありますが、このように『だんない』の活動は見直しを図りながら進めました。

さて、毎年恒例となった「だんないシンポジウム」、今年もやります！記念すべき5回目となるシンポジウムのテーマは、「交通アクセス」です。まもなく障害者差別解消法が施行されます。ところが、公共交通にしばって見ると、交通バリアフリー法で乗降利用者数3千人以上の駅にバリアフリー対象が限られているのです。つまり、田舎の駅ではバリアフリー化しなくても問題はありせん。バリアフリー化の置いてけぼりとなりつつある湖北

の地で、障害者の交通アクセス問題をどのように捉え、移動する権利を保障すべきかを考えたいと思います。詳しくは、チラシをご覧ください。

桜の情報をテレビでも耳にするようになりました。選抜高校野球も、もう大詰めです。公用車のスタッドレスタイヤからノーマルタイヤへの取り換えもしました。春の訪れを確かに感じられるようになりました。条例づくりや差別解消法の周知など、取り組む課題はたくさんあります。いろいろとありすぎてあせってしまいそうになりますが、そういうときこそ指揮者の振るタクトに合わせ正確なテンポを刻むように淡々と歩み続けたいです。2016年度も引き続き、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

美濃部 裕道

Be すけっと 藤原久美子さんの講演を聞いて

大橋早香

3月13日、21日の2回、Be すけっとの藤原久美子さんの講演を聞かせていただきました。

今回は13日のお話を聞いて、私が思ったことを書きたいなと思います。

13日にお話された中で、藤原さんが女性障害者として経験されたことに、「強制不妊治療をすすめられた」ということがありました。さらに、お話の中に知的障害の女性で、「子宮をとる手術をされ、“子宮をとる”ことがどういうことなのか、手術をして時間が経ってからその意味を知った」ということが昔あったという話をされていました。このお話を聞いて私が思った事は、障害があるというだけで、強制不妊治療をすすめられるのは、「障害者には、子育てが難しいだろう」という考えがあるからだだと思います。けれど、障害があるという前に、障害者だって一人の人間なのです。それなのに、すぐに“強制不妊治療・中絶”をすすめるのは、“障害者”としか見ておらず、“一人の人間・一人の女性”として見ていないということではないでしょうか？

でも、子育てに戸惑ったり、悩んだりするのは、障害のない女性も同じです。障害のない女性も、親に子どもを見てもらったり、親と一緒に子育てをしたりして親と協力している人もいます。また、ママ友と悩みや情報を共有している人もいます。同じように、障害者も親と協力して子育てできると思うのです。ただ、障害者女性は悩みを打ち明けたり、子育てに関する情報を得る場が障害がない女性に比べ、はるかに少ないということがあります。そのことについて私は、女性問題の相談機関が子育てについて親身に相談を受け、まずは、悩みをしっかりと聞くことが大切だと思います。

藤原さんのお話を聞いて、女性障害者の問題について自分が知らないことを知ることができました。それから、やっぱり障害がある女性は社会からいろいろなことを制限されているなあと感じました。“障害があること”+“女性であること”の複合差別を受けて生きる人は自分が思っているよりも、たくさんいることを知ることができました。

私はこれからも活動を続けることが、大切なのだと思いました。それから、直接アプローチできなくても、活動を通して女性であり障害者であっても外や社会に出て、自分らしく生きていけるんだということを伝えていきたいな~と思います。

自分の人生を仲間と生きる！

谷口健人

だんないで本格的に活動しはじめて、8ヶ月間ほどが経ちました。速いものだなと思います。いろいろな変化があったと感じていますが、いちばん嬉しいことは、語り合える仲間に出逢えたことです。嬉しかったことも、しんどかったことも、以前は自分ひとりだけのものでしたが、今は仲間と分かち合って、嬉しいことはもっと嬉しく、しんどいこともみんなで受け止めて、前に進むことができると思っています。

家に引きこもっていたときは、死にたくて仕方なかったけれど、今は生きてたくて生きてたくて生きたいです。自分の人生を自分らしく生きるためには、まだまだいろいろなハードルがあって、しんどいなあという気持ちになることも多いです。実家で嫌なことを言われたり、行政との交渉がなかなかうまく進まなかったり、電車やバスに乗れないとか、乗れてもお客様として接してもらえずに荷物取り扱いのような接遇をされたり…なんでやねん！という感じです。「仲間に出逢えた」と言いつつ、仲間を頼ることが上手く出来ていなくて、結局全部自分だけで解決しようとしたり、答えのない問題の答えを求めようなどことをして、焦ったり落ち込んだり、なんというか…いろいろ下手くそやなあと思います。

だけど、そんな下手くそな自分でも「それでいいよ」って認めて、いっしょに自分らしい生き方を目指しているのが、だんないの仲間かなと思っています。これから、やりたいこともやらないといけないこともたくさんあります。でも、時間にも体力にも限りがあるので、全部自分だけで！とか、絶対カンペキに！とか思っていると、到底やっていけないなあという感じなので、時間と力を使うべきところをしっかりと見極めて、仲間のことも自分のことも信頼して着実に進んでいけたら(進んでるつもりが戻ってみたいなのもいっぱいありつつも…)いいなと思います。

仲間

小里和也

2015年を振り返り、僕が良かったと思ってる事があります。

それは、だんないに「たにけん はやちゃん まゆちゃん」と言う仲間が入ってきてくれた事です。事務所の雰囲気も明るくなり、活気のあるだんないになりました。

“障害に対するとらえ方” “社会に対する思い” などをお互い話す中で、相手や自分の思いを改めて色々知る事が出来ました。

そんな中、だんない企画の見直しについて話し合いをしたとき、たくさんの意見などが出て、当事者意見交換会（色々な課題や良かったことについて、みんなで共有し話し合う）ピア活動（ピア・カウンセリングだけで

はなく、仲間が集まり語り合い活動をする」と言う企画を新たに作りました。

この二つの企画が生まれた理由は、自分が思っている事を伝えたい、それをみんなで共有していきたい！また、私たちだけではなく、まだC I Lやだんないの考え方を知らない仲間を“当事者主権”という自分らしく生きていける事を知ってもらいたいと思っているから、このような企画が生まれたと思います！僕は、そう思っています！

何が言いたいかというと、活動(障害観を変える)をしていくのはひとりではなく、仲間と一緒にお互い思っていることを共有し活動していく事が大切だと云うことです。なぜなら、仲間と社会を“作っていく、変えていく”からです。

そして、2016年の目標は、パワフルに活動を続けて行くのはもちろんですが、一番大切なのは“今の社会が生きづらい”と感じている仲間を探し活動を通して、北部地域を盛り上げて行くことです！

だんないに来て

岡田真由子

私はだんないに来て7ヶ月が経ちました。

7ヶ月間活動をして思ったことは、いろいろ外に出て行くことで人との関係広がることに気がきました。

例えばステッカー貼りに行きステッカーの説明をして私たちの気持ちを伝えようと思いました。

でも伝わってない人もいるかもしれません。

そのためには少しでもわかりやすい説明をした方が良くと思いました。

来年度の目標は、もっと「C I L」について勉強し充実した企画を考えたいです。

そこで思うのは、私は人に聞くことが苦手で自分だけでやってしまうことがあるので、これからはわからないときは聞くようにしていきたいです。

一人でやってしまうと自分で思い込み失敗することもあります。

だから来年は「人に聞く」ということを心がけて活動していきます。

活動報告

日付	内容	参加者
2月21日	だんない企画会議	
23日	「小さき声のカノン」	頼尊
24日	運営委員会 in ルッチ	美濃部
27日	ぼてとファーム事業団評議委員会	
3月1日	ピアカン委員会	美濃部
3日	JIL 関西学習会	美濃部・小里・谷口・岡田
4日	長浜養護学校卒業式	小里
4日	障害者と障害のない人がともに働くためのフォーラム	頼尊
5日	塩田さんの復職を求め欠格条項の違憲性を問う集会	頼尊
4日～6日	2015年度・障害者ピア・カウンセリング集中講座 in 舞洲	谷口
8日	当事者意見交換会	
8日	だんない生誕祭	
10日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 権利擁護委員会 in ゆめホール	美濃部
12日	障害者の就労～共に生き共に働く in 静岡	頼尊
13日	誰もが暮らしやすい福祉しがづくり支援事業 in 長浜	
14日	バリアフリー調査	
15日	だんない企画会議	
16日	成年後見受任者情報交換会	美濃部・小里・大橋
18日	職員研修	
19日	映画『風は生きよという』上映会と、お話・交流会	頼尊
20日	誰もが暮らしやすい福祉しがづくり支援事業 in 彦根	
21日	障害者差別解消法シンポジウム in 野洲	小里・谷口
21日	介護と介助ー障がいのある人の生活を支えるということ	頼尊
22日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 サポート推進委員会 in 長浜市役所	美濃部
23日	障害福祉サービス事業者等集団指導	高橋
	長浜市成年後見・権利擁護センター運営委員会	美濃部
24日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 全体会議	美濃部

26日	キャンパスライフも、十人十色 in スクラム	
27日	障害者差別解消法施行パレード in 愛知	頼尊
28日	第30回国際障害者年連続シンポジウム	谷口
29日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 権利擁護部会	美濃部
31日	障害者差別解消法施行を祝う全国一斉行動 成果報告集会&パレード	頼尊

職員リレートーク

昨年の12月よりだんないで働かせていただいております。

ヘルパーの経験が全くない私にとっては未知の世界で、正直不安でいっぱいのスタートでした。

しかし、いざ入ってみると、圧倒されるくらいに職員の皆さんの明るさとパワーがみなぎっていて私の不安はあっという間に消し去られてしまいました。

皆さんの大きな心に助けられながら毎日賑やかに過ごしているうちに、いつの間にか三ヶ月が過ぎてしまった気がします。

ここにきて、自身がどうあるべきか日々悩みつつも「指示介助」の意味がようやくわかりかけてきたところです。だんないでの毎日は変化に富んでいて、日常の生活だけではなく、他団体のとの交流や会議への参加、余暇活動など今までにない経験をさせていただく機会も多く私にとっては全てが勉強です。

まだまだ学ぶ事ばかりですが、いただいたご縁と出会いに感謝し微力ながら何かひとつでもお役に立つことができるなら幸いです。

これからもどうぞよろしくお願いいたします。

田川秀美

コラム

ヨリの雑記帳（22）

DFA（だんないフィルムアーカイブス）の活動をはじめ、約2年になる。その間、多くの作品を受け入れてきた。特に16mmフィルムアーカイブスは、ある程度の量を確保できた。特に、インクルーシブ教育に関する

フィルムは、注目に値するものも少なくない。その中でも今月に入って、貴重なフィルムをまとまった形で入手することが出来た。これらのフィルムは、受け入れ前から、その内容が明確にわかっているものから、タイトルと大ざっぱな内容しか把握できていないものまでである。そのような意味で、受け入れ時に内容を検討している。先日、アーカイブスの受け入れ & データ化作業をしていて偶然にも、石川正一 (<http://www.arsvi.com/b1900/7307is.htm>) の動画に出遇った。この映画の撮影に関しては確か石川正一の本の中でも紹介されていた。またラストシーンは、本の中で文字起こしもされていたように記憶している。

15・16歳の頃だっただろうか？当時の僕は、本嫌いな高校生であった。たまたま何かの用事で高校の近くの大型書店でキリスト者の星野富弘の本を買った。星野富弘のほんの巻末にあった立風書房の出版案内で石川正一の本が紹介されており、何となく石川正一の本を読み始めた。

この石川正一の本との出遇いが、僕の人生を（仏教）福祉の世界へと誘った。つまり、僕はキリスト者の石川正一の生きざまに大いに触発を受けたのである。石川正一の関連文献を読みあさり、自らの障害の進行と信仰的生活の内実を石川青年のそれとをオーバーラップさせて考えていた。そのほかにも、星野富弘や町田知子などを念入りに、繰り返し、繰り返し読んでいたような印象がある。

ただ、今回のアーカイブス化の作業を通して、カツジではなく、映像の記録として、石川正一の動画を見て、15・16歳当時のボクの筋ジス観、石川正一観が現実とかなりズレがあったように思える。もちろん、その後、ボクはいろいろな変遷を経て、自立生活運動にようやくたどり着いた。だからこそ、周りには筋ジスの仲間も少なくないし、それら仲間の姿と石川正一の動画をオーバーラップさせることができる。

そのときに浮かび上がる、カツジだけで見るより、たぶん真実に近い石川正一像が浮かび上がる。そう考えたときに、あの時、「障害の進行と信仰的生活」と言っていた本質とはなになのか、改めて感じさせられる。そこに、どっぷり医学モデルに浸かり、「障害者を無力化する社会」を無視し、「障害の進行」を悲観視していた自分が存在する。そこに「信仰的」って言ったとき、大変個人的な内容に「障害問題」を閉じ込め、「悲しみ」の内容としているんだなあと改めて感じた。その背景には「百聞は一見にしかず」と言われるように、カツジの行間に込められた思いを読者側が自由に豊かな感情で読んでしまうので、事実と異なってしまうことがあるのかもしれない。しかしながら、それよりもっと奥に、信仰的生活は個人と仏あるいは神との関係性に成り立つものだから、その二者関係を越えた社会のあり方は問題にしないという暗黙の公式があるのかも知れない。そうであるとするならば、社会的な差別や抑圧に対して、「信仰」の名の下で、その現実を目を向けさせない宗教のあり方とは、いかなるものかと強く憤りを覚える。

かく言うボクも、いちおうは僧侶である。石川正一の動画との出遇いによって、改めて宗教と障害者福祉との関係性を深く問うものであった。ボク自身、社会の問題から目を背けない人生を歩みたいと強く思う今日この頃である。

DFA を通して歴史にであう。つまり、過去にあったものを集め、蓄積していく活動は、現在のボクたちの生き方を、深く問い直す一助となる。そのような意味では、DVD など手軽に映像資料にアクセスできる現在、16mmフィルムは一見すると過去の遺物かもしれないが、ボクたちはそのような過去の遺物から生きる姿勢を問われているのではないだろうか。

（よりたか つねのぶ）



NPO 法人 CIL だんない

〒529-0423

代表 美濃部裕道、副代表 市川正太

滋賀県長浜市木之本町千田681番4

事務局長 頼尊恒信、理事 横山卓馬

TEL : 0749-50-3639

URL : www.ab.auone-net.jp/~dannai

FAX : 0749-50-3961

E-mail : dannai@ae.auone-net.jp

郵便振替口座番号 : ゆうちょ銀行木之本支店 00940-2-209115

加入者名 : NPO 法人 CIL だんない